



病院機能を データドリブン 診療情報 管理士

緻密な分析力★★★★

昨今の医療政策では、病院ごとの診療実績をデータ化して集約し、それに客観的な比較を加えて標準化を進めることが求められています。そのためデータ作成の業務を担うとともに、自院の機能や実績のデータに分析や考察を加えて経営戦略に役立てる専門職です。

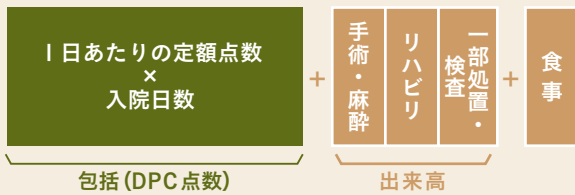
02 看護必要度情報の作成

看護業務を可視化

02

看護必要度とは、患者さんへの処置投薬内容、患者さんの生活状態、手術の内容の3つにより、看護職員の業務量を計測する指標のことです。診療情報管理士は、看護部が作成する患者さんごとの看護必要度データの整合性をチェックし、電子カルテに情報を入力しています。

当院では平成26年4月よりDPC方式を採用！



DPCコードとは、入院中の患者さんごとの、主要な疾患名と治療内容の組み合わせで決まる14桁の番号のことです。この番号で患者さんの1日あたりの入院料のうち、包括される部分の金額が決まります。同じ疾患であっても治療内容、病状の経過が変化していくことがあるため、カルテをもとに新たなコードへ更新していきます。当院ではこのDPCコードのもと、病名や診療内容に応じて1日あたりの医療費が決まる「DPC方式」を用いて医療費の請求を行っています。

01 入院患者さんの状態をデータ化する DPCコードの作成

DPCコードについて

WHOが定めた国際疾病分類に基づいて細分化され、最終的には4000程度の診断群に分かれます。患者さんが退院するまで何度も更新するので、ミスがないよう細心の注意を払っています。

コード例

16 0620 xx 01 xxxx

この例では
使用していない
コード
半月板縫合術や
十字靭帯断裂
縫合術などの手術
膝・肘の
外傷
外傷・熱傷・
中毒



03 他部署への働きかけを行う 厚生労働省向けの 調査データ作成

「カルテ」「レセプト」「看護必要度」「医療機関施設情報」の情報間の整合性をチェックをし、3ヶ月毎に厚生労働省に調査データを提出。期日に遅れると病院名を公表されるなどのペナルティが発生するので気を遣う作業も多いお仕事です。

入院医療の
とりまとめ役！

各部署の情報間に
整合性がとれていないと
エラーとなるので、情報
連携のサポートも仕事の
ひとつです。



縦系と横系の医療

私も20年前に診療情報管理士の資格を取得しましたが、医療機関における事務職の進歩や変化には隔世の感があります。

本号で紹介した職種以外にも、五省会の各施設では介護請求業務、施設維持管理業務、バックオフィスを守る本部業務など、多岐にわたる事務職員が医療・介護の現場を支えています。

縦系と横系がしっかりと織りなされることで一枚の布ができあがるように、医療職と事務職のしっかりとした連携のもとに現在の医療があることを痛感しています。

西能病院
病院長
増田 明

